

令和7年度孤立集落状況把握・支援訓練 (広島県(福山市)・内閣府)

実施報告書 (概要版)

広島県福山市について

- 広島県福山市は、瀬戸内海沿岸のほぼ中央、県南東部に位置する中核市である。
東側は岡山県と隣接し、南部は瀬戸内海に面し、多数の島々が点在する。人口は令和8年2月時点で約45万人である。
- 中心市街地は一級河川の芦田川河口付近に広がる福山平野に位置する。北部・西部・南部には山地が連なり、北西から南へ芦田川が貫流して神辺平野と福山平野を形成している。
- 南部の島嶼がつくる海域景観は景勝地として知られる。

主な被害想定

- 河川・ため池の氾濫、浸水、土砂災害、液状化、津波等の被害が想定され、中山間部に位置する集落は道路が通行止めになる可能性がある。
- 南海トラフ地震が発生した場合には、最大震度6強の揺れが想定される。



訓練概要

- 訓練想定：南海トラフ地震により、福山市中条学区において震度6弱の地震が発生。これにより大規模な土砂崩れが発生し、三谷地区の住民が孤立。
- 実施日時：【訓練実施前WS】 令和7年10月22日（水）19:30～21:40
 【孤立集落状況把握・支援訓練】令和7年11月23日（日）9:00～11:00
 【訓練実施後WS】 令和7年12月16日（火）19:30～21:30
- 主催：福山市、広島県
- 参加者数：約200名
- 参加機関：学区住民、中条学区自主防災会、福山市消防団中条分団、一般社団法人日本ドローンビジネスサポート協会、株式会社MITINAS
- 訓練項目：シェイクアウト訓練、避難訓練、自主防災本部運営訓練、孤立集落状況把握・支援訓練、ドローン物資輸送訓練
- 訓練の特色：訓練は中条小学校を主会場、中条小学校三谷分校を孤立集落側の会場として、支援側と孤立側に分かれて実施した。
 自主防災本部運営訓練では、状況付与型のシナリオに基づき、LINEオープンチャットや衛星携帯電話を活用した情報伝達訓練を実施した。広島県・福山市、協定事業者が連携し、ドローンによる孤立地域への物資輸送ルートを事前に検証した。訓練では作成した飛行ルートをもとに往復約7kmの物資輸送を行った。

訓練の成果

【成果】

- 福山市が孤立のおそれが高い自主防災組織の7学区・地区のうち1学区について、ワークショップを実施し、地震発生時の初動対応チェックリストを作成することができた。また、既存の「学区・地区防災（避難）計画」へ孤立可能性集落対策に関する記載を追加することができた。
- 県と市が連携して孤立集落対策に力を入れていく機会となった。
 広島県は、孤立集落対策に関する関係機関の役割分担等の整理を行い、福山市は、今回の訓練成果を他学区・地区へ展開していく。
- 事前に飛行ルートを作成しておくことで、孤立発生時に迅速に対応できることが分かった。

【課題】

- 初動の遅れを防ぐため、孤立可能性集落への飛行ルートをあらかじめ設定しておく必要がある。
- 迅速な救助活動につなげるため、孤立可能性集落の住民は、上空偵察への的確な意思表示（SOS等）の方法を理解しておく必要がある。

10月22日(水) 19:30~21:40 訓練実施前ワークショップ

- ・大規模地震発生時の参集から情報集約、市への報告まで、学区が取るべき初動の動きについて、4つの班に分かれて話し合った。
- ・平時から学区独自で利用しているLINEオープンチャットを災害時の情報伝達手段として活用するという案が挙げられた。
- ・ワークショップで出た意見等をまとめて初動対応チェックリスト（案）を作成した。

▼防災アドバイザーによる講話



▼訓練参加者によるワーク



11月23日(日) 9:00~11:00 孤立集落状況把握・支援訓練

- ・各自でシェイクアウト訓練を実施後、一次避難場所へ避難した。町内会長はLINEオープンチャットを活用して、自主防災本部に避難者数を報告した。
- ・本部では、初動対応チェックリスト（案）をもとに本部運営を行った。
- ・自主防災本部が孤立を把握後、市、県への報告を経て広島県防災ヘリにて上空から孤立集落の状況を確認した。
- ・カメラ・スピーカーを搭載した調査用ドローンによる現地確認・ニーズ把握を実施し、大型ドローンによる支援物資を輸送した。

▼一次避難場所への避難



▼総務班による情報集約



▼孤立住民による「SOS」の人文字



▼ドローン搭載のスピーカーを通じて話しかける
自主防災会会長



▼物資を搭載した大型ドローン



▼情報班によるLINEオープンチャットを活用した情報収集



12月16日(火) 19:30~21:30 訓練実施後ワークショップ

- ・訓練を振り返り、初動対応チェックリスト（案）の修正を行い、チェックリストを完成した。
- ・抽出された課題を次回の訓練設計に活かし、改善と実施を繰り返すことで、実効性のある訓練を継続していくことを全員で共有した。

▼訓練参加者によるワーク



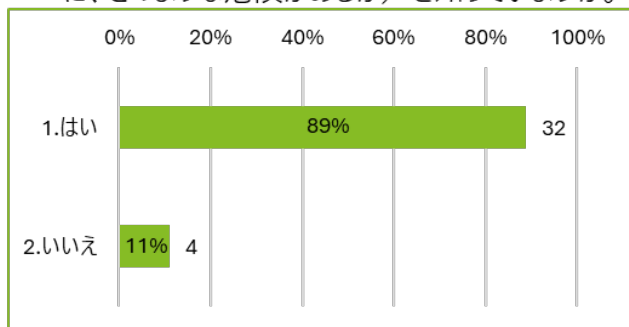
▼参加者による発表



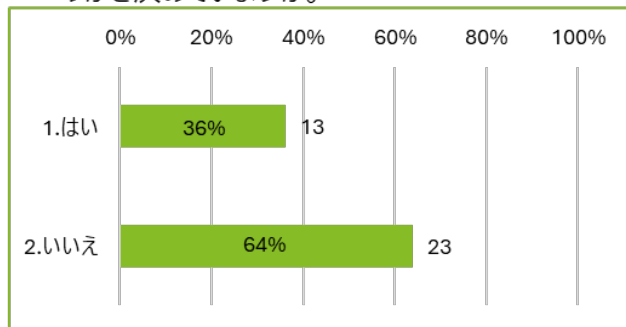
アンケート結果

回答数：36

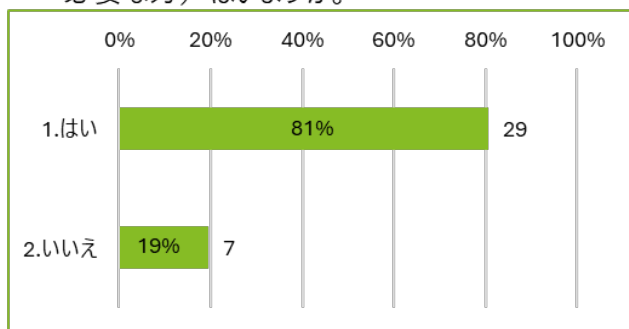
1. 災害のリスク（災害時、お住まいの地域のどこに、どのような危険があるか）を知っていますか。



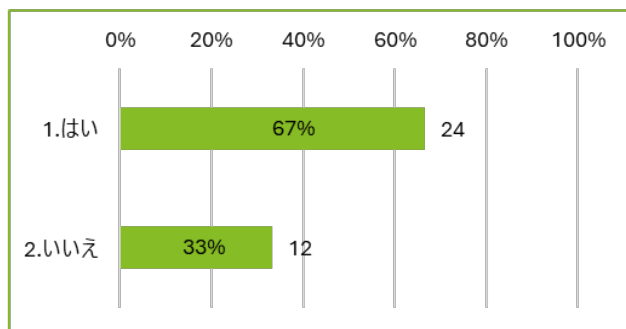
2. 災害時に家族同士で、どのように連絡を取り合うかを決めていますか。



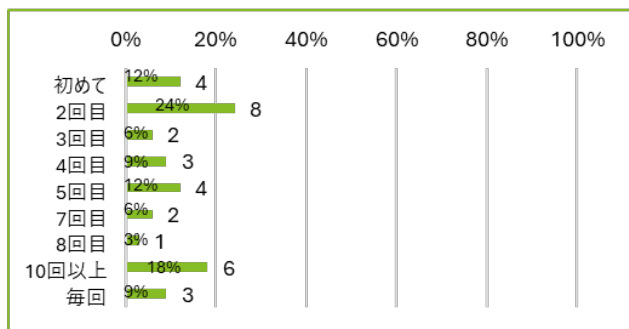
3. あなたの周囲や近所に避難行動要支援者（自力で避難することが難しく、周囲の支援が必要な方）はいますか。



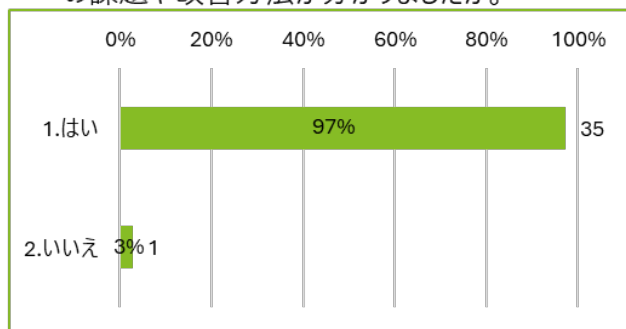
4. 自宅に3日以上以上の備蓄品はありますか。



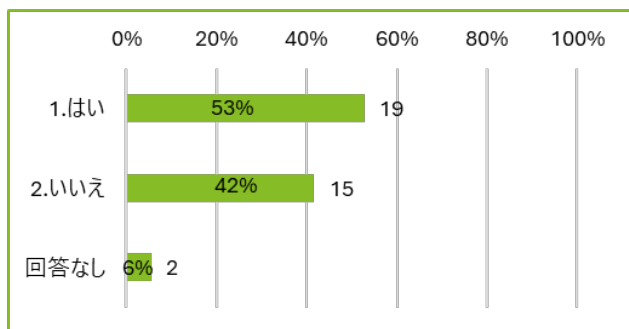
5. 地域の防災訓練に参加したのは初めてですか。



6. 今回の訓練に参加し、災害に対する自らの備えの課題や改善方法が分かりましたか。



7. 避難経路に危険な場所がありましたか。



8. 地震発生時にいた場所(自宅等)から避難先(一時避難場所、津波避難施設)まで、何分くらいかかりましたか。

